

市営プール繁忙期外のこれから

奥村 太輝 [21111077to@tama.ac.jp]

宮川 喜行 [21111307ym@tama.ac.jp]

1;目的

通年の市営プール業界の現状は、繁忙期以外の利用者の減少が目立つ傾向がある。市営プールは民営と違い市が選考した民間企業が管理をしている指定管理制度を取り入れている。指定管理制度では、収益の増加よりも利用者数の増加を審査対象にしている。そのため、市営通年プールでは繁忙期以外の利用者を増やすことが重要である。そこで私達の仮説として、繁忙期外に無料の体操教室を行う事により月別利用者の増加が可能であると考ええる。

2;方法

相模原市北市民健康文化センターの過去の利用者データを元に、繁忙期以外の利用者数の変化について分析した。このプールでは、繁忙期外に無料教室を開催しており、過去の利用者データと比較し、利用者数との関連性を調べた。

3;結果

市営通年プールでは、繁忙期以外の月に健康体操教室を行う事により顧客獲得は可能である。

また、健康体操教室は繁忙期外の月利用者を増加させることが可能である。